

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

平成24年3月1日（木）発行

# 会 報

事 務 局

北海道札幌琴似工業高等学校

〒063-0833

札幌市西区発寒1 3 条 1 1 丁目

TEL 011-661-3253

FAX 011-661-3252

## 巻 頭 言

### 「生徒の夢や希望を叶える定通教育を目指して」

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会長 板 東 眞 一  
北海道有朋高等学校通信制課程副校長

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会会員の皆様には、日頃より本部会の運営・諸事業の推進に深いご理解と多大なるご尽力をいただき深く感謝申し上げますとともに、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会定通部会をはじめ関係機関より賜りました温かいご指導・ご支援に対しまして、本部会を代表して心より感謝申し上げます。

さて、我が国の高等学校定時制通信制教育は時代の進展とともに大きく様変わりし、現在では学校教育のセーフティネットとしての機能、更には生涯学習社会の一翼を担う機能を併せ持つことが期待されるようになりました。小中学校時代をほとんど不登校で過ごした生徒、学習意欲はありながらも健康上の問題から十分な学習機会に恵まれなかった生徒、全日制高校に入学しながらも様々な事情で転編入学をせざるを得なかった生徒、日本語の修得が不十分なために学習が思うように進まない外国籍生徒、そして学習障害等から特別な配慮を必要とする生徒への対応等、定通教育に求められる課題は大きくしかもより専門的になっています。

このような中、全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会では、①多様化した生徒に応じた定通教育の改善と充実、②勤労青少年の修学条件の改善及び就学の促進、③教職員の定数及び待遇の改善、④組織及び事業の充実と活性化の4点を事業目標に掲げ各種事業及び調査研究活動に取り組んでいるところです。特に文部科学省より全国定通教育振興会が委託された調査研究事業の一環として定通4団体が実施した「定通生徒実態調査」については、この調査結果により明らかになった生徒の実態をつぶさに分析し、課題解決に向けた具体的な取組が今後必要になろうかと思われまます。

本部会におきましては、会員相互のネットワークを駆使しそれぞれの学校で課題解決に向けた着実な学校運営が進んでいるところですが、生徒を取り巻く環境は一層複雑化し、教育と福祉の問題はますます重要性を増しています。本部会には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家、更には児童相談所等の関係機関との実効性のある連携を進めると共に、併修制度等の履修形態の一層の弾力化を図り定時制通信制に学ぶ生徒が社会生活に確かな一歩を踏み出し、一人でも多くの生徒の夢や希望が叶うよう更なる取組が期待されています。

北海道における生涯学習の一翼を担い、また老若男女を問わず学ぼうとする生徒一人一人の豊かな自己実現を支援する定通教育を担うものとして、本部会の果たす役割は決して小さくはありません。定通教育の優れた特長を生かし、今後とも生徒のために最善を尽くす所存ですので、会員の皆様のご理解・ご協力をお願いするとともに、皆様のご健勝と更なるご活躍を祈念し巻頭のご挨拶といたします。

## 「定通教育の現状と諸課題について」

北海道高等学校長協会定通部会長 村田 政 孝  
北 海 道 有 朋 高 等 学 校 長

教頭・副校長会定通部会の各教頭・副校長の皆さまにおかれましては、日ごろより、北海道における定時制通信制教育の推進・充実にご尽力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

特に、今年度は、昨年8月上旬に「第62回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会・研究協議会<北海道大会>」が開催され、皆さま方には、長期間にわたる諸準備なども含めて大変なご尽力をいただきました。東日本大震災やそれに伴う原発事故などの影響により、例年よりも参加者が少なくなるのではないかとの懸念もありましたが、定通教育の振興・充実に期する全国の皆さまの強い願いと「自然豊かな北の大地から定通教育の新しい方向と可能性を発信する」を大会テーマとし、全国から来道される皆さまを迎えるための諸準備を進めていただきました北海道定時制通信制教育に係わる皆さまの熱い思いが、ここ北海道で実を結び、大変に有意義な大会になりましたことをありがたく思いますとともに、ともに喜び合いたいと思っております。

さて、本校の校長室に保管されておりました、1972年（昭和47年）に当時の文部省から発行された「高等学校定時制通信制教育の手びき」という小冊子に目を通しますと、その巻頭言として、当時の文部省初等中等教育局長が次のような一文を寄せています。

「近年、高等学校へ進学する者は著しく増大してきています。しかし、中学校卒業後すぐ就職しなければならない者も少なくありません。高等学校の定時制の課程および通信制の課程は、教育の機会均等の精神に基づき、働きながら学ぶ青少年に高等学校教育を受ける機会を与えるために設置されているものです。…」

ここには、定時制と通信制の課程の設置目的が明確に示されていますが、時代の変遷とともに、現在、定通教育は、設置目的にある勤労青少年に対する高等学校教育の保障のみならず、高校中退者や不登校経験者への学び直しの機会提供、集団に馴染めない生徒や外国籍生徒、また、特別な支援を必要とする生徒への個別的な学習指導、さらには、学びを継続したいという意欲に満ちた地域の社会人などへの生涯学習機関としての役割など、さまざまな学習ニーズに対応できる学習の場としての役割を担うことが期待されています。

それらの期待に応えるために、それぞれの学校においては、教職員の献身的な取組がなされておりますが、今後とも、文部科学省や北海道教育委員会などとも緊密な連携を図りながら、本道において定時制通信制課程を設置している44校が相互に情報交換し、それぞれの伝統や地域の特色を生かしながら、定時制通信制だからこそできる教育の実現を目指したいものと思っております。

今後とも、教頭・副校長会定通部会の皆さまの、ますますのご活躍を心からご祈念申し上げます。

平成23年度第62回全国高等学校定時制通信制教頭  
・副校長協会教育研究協議会沖縄大会報告

～生徒の実態に応じた教育内容・方法の工夫・改善及び定時制通信制教育の充実のための方策等について～

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会事務局長  
北海道札幌琴似工業高等学校 教頭 一色 博介

日頃より当事務局にご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。これまでに年次計画をほぼ当初の予定どおりに遂行できましたのも会員各位のご支援の賜と感謝申し上げます。

さて、標記大会について次のとおり報告します。

- 期 日 平成23年7月28日(木)～29日(金)
- 会 場 パシフィックホテル沖縄、沖縄県男女共同参画センター「ているる」
- 参加者 184名(北海道支部より代表2名)

◆全国理事会・総会

主催者を代表して柄倉和則全国定時制通信制教頭・副校長協会理事長(東京都立桜町高等学校副校長)より、開催支部を代表して黒島直人沖縄大会実行委員長(沖縄県立泊高等学校教頭)より挨拶がありました。来賓として石澤精三公益財団法人石澤奨学会理事長から祝辞があり、議事後、顧問・名誉会長へ表彰状・感謝状が贈呈されました。

◆開会式

小谷和浩文部科学省初等中等教育局企画課教育制度改革室長、北里尚寿厚生労働省職業能力開発局育成支援課キャリア形成支援室若者自立支援係長、石曾根誠一財団法人全国高等学校定時制通信制教育振興会常務理事、長山晃一全国定時制通信制高等学校長協会理事長、石澤精三公益財団法人石澤奨学会理事長、大城浩沖縄県教育委員会教育長より祝辞がありました。

◆講演

「沖縄から見える歴史風景」と題して、沖縄大学客員教授新城俊明氏による講演がありました。

◆研究協議会・分科会

各分科会の発表内容・発表校は次のとおりです。

◇第1分科会<教育課程>

「定時制・通信制高校の外部人材の活用」東京都立南葛飾高等学校、「今年度から実施した新たな取り組み」鳥取県立緑風高等学校。

◇第2分科会<生徒指導>

「ありがたい自分、なりたい自分を支援する学校づくりをめざして」市立札幌大通高等学校、「本校における生徒指導の取り組み」秋田県立角館高等学校。

◇第3分科会<管理運営>

「定時制通信制高校における教職員の人材確保及び育成について～意欲と指導力のある教職員の確保と育成を目指して～」神奈川県立神奈川総合産業高等学校・神奈川県立秦野総合高等学校、全定併置校における定時制課程の取組みと課題～『学びの再チャレンジ』を目指して～」香川県立三木高等学校。

◇第4分科会<教育制度・単位制>

「三部制・単位制を活かした学び直しの取組」岐阜県立フロンティア高等学校、「学校間連携による文化的行事としての連合文化祭の取組」福井県立大野高等学校、「府立高等学校特色づくり・再編整備に伴う定時制改革の現状と課題」大阪府立佐野工科高等学校。

◇第5分科会<通信教育>

「紀の川高等学校通信制課程現状と課題」和歌山県立紀の川高等学校、「中部地区通信制高等学校の現状と課題」長野県立松本筑摩高等学校。

◆研究協議会・全体会

各分科会の協議内容が報告された後、文部科学省初等中等局視学官太田光春氏と沖縄県立学校教育課産業教育班長山城邦定氏から示唆に富む助言指導がありました。

◆閉会式

次期開催地東海支部本道和本正氏より愛知大会の案内がなされ、沖縄大会実行委員長黒島直人氏が大会終了に当たっての謝辞を述べ全日程が終了した。

北海道支部を代表して研究発表を担当された市立札幌大通高等学校鈴木恵一教頭、第2分科会の議長をされた北海道有朋高等学校板東眞一副校長には、心より感謝申し上げます。

## 全国高等学校給食研究協議会理事会・総会報告

北海道札幌工業高等学校 教頭 木藤 宏伸

平成23年8月1日に全国高等学校給食研究協議会理事会・総会が東京都学校給食会館にて開催されました。北海道ブロックからは札幌北高等学校長の黒田信彦ブロック副会長に出席をしていただきました。

今年度より、文科省が主催する全国学校給食研究協議大会への参加は行わず、全国高等学校給食研究協議会が主催する全国大会を隔年で実施することとなっております。したがって、平成22年度の次の全国大会は平成24年度開催となります。また、今回の理事会・総会では、会則の一部改訂が審議、議決されましたので、報告いたします。

会則は全体で4章、第14条からなります。今回の理事総会で審議されたのは主に第11条の「理事会・総会」及び全国大会開催についてであります。以下、条文にしたがって説明します。

### 第11条

「総会、理事会は毎年1回8月（予定）に開催する。常任理事会は毎年1回以上開くこととする。ただし、必要に応じ、臨時に開くことができる。総会は事業計画、予算、決算、等重要事項を審議する。また、理事会は総会に付議すべき諸条件を審議する。また、常任理事会は理事会に付議すべき諸条件を審議する。常任理事会は理事会に付議すべき諸条件のほか、会務運営に関する事項について審議する。」となり、この会則の実施、運用については下記の通り行うこととなっております。

- 1 「理事会・総会」を毎年（8月を予定）開催する。  
「全国高等学校給食研究協議大会」実施年度には開催地の東京で大会期間中に行うこととする。
- ① 前年度会務報告、当年度7月までの会務報告を行う。
- ② 次年度の事業目標の審議を行う。
- ③ 次年度に大会がある時は発表県の確認を行う。  
(大会が実施される年度の前年度)
- ④ 機関誌発行年度では「全国工高給食」寄稿県の確認を行う。

以上が今年度の全国高等学校給食研究協議会理事総会で決定及び確認された事項であります。

## 全国単位制高等学校長等連絡研究協議会参加報告

北海道有朋高等学校 校長 村田 政孝

全国単位制高等学校長等連絡協議会が、平成23年10月13日（木）から2日間の日程で香川県高松市の「サンポートホール高松」を会場に開催されました。

本研究協議会は、単位制高等学校の当面する諸課題について研究協議を行い、今後の学校運営と教育活動の充実発展に資することなどを目的に開催されており、今回が22回目となります。

会場は、北海道からの6校9名を含めて全国各地から約180名の校長などの参加者で熱気にあふれ、誠に有意義な研究協議となりました。

以下、私が参加した研究協議について報告します。

### 1 全国定通校長会単位制高校委員会報告(全体会)

開会式直後の全体会において、単位制委員会委員長の都立飛鳥高等学校の山中豊校長から、「単位制設置趣旨の展開と課題（中間報告）～都立夜間定時制普通科高校を例として～」と題した発表がありました。

発表では、本来、単位制は学びへの意欲に基づく主体的な科目選択を拠りどころとした仕組みなのですが、消極的な選択が行われる実態や系統的・継続的なキャリア教育の推進に課題が生じている状況にあることから、生徒の実態等により、従来の方法を固定的にとらえる必要はないのではないかと提言がありました。

### 2 研究協議Ⅰ（全体会）

「多様なニーズに応える単位制高校の在り方」をテーマにパネルディスカッションが行われました。コーディネーターを愛媛県立新居浜南高等学校長が務める中、パネリストとして全日制から香川県立観音寺中央高等学校長、定通制から沖縄県立泊高等学校長と徳島県立徳島中央高等学校の計3名からの提言に続き、パネリストとの質疑応答や情報交換が活発に行われました。

### 3 研究協議Ⅱ（分科会）

「単位制高校における当面する諸課題とその対応」をテーマにパネルディスカッションが行われました。私は、定通分科会に参加しましたが、香川県立美紀高等学校長がコーディネーターを務める中、昼夜間定時制と通信制の併置校である都立一橋高等学校とⅡ部制の定時制高校である大阪府立咲州高等学校の校長がパネリストとしてそれぞれが提言し、質疑応答を含めた熱心な協議が進められました。

第62回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長会  
教育研究協議会沖縄大会参加報告

市立札幌大通高等学校 教頭 鈴木 恵一

この度は標記研究協議会において、研究発表の機会を賜り、北海道定通部会校長会並びに教頭・副校長会の皆様に感謝申し上げます。

沖縄大会は平成23年7月28日（木）・29日（金）の2日間日程で、文字どおり北は北海道から南は沖縄県まで、全国各地の教頭・副校長、来賓の方々を含め200名を超える皆様が参集し、「教育課程」「生徒指導」「管理運営」「教育制度・単位制」「通信教育」の5分科会において有意義な研究協議会が開催されました。私は第2分科会「生徒指導」の研究発表者として参加しました。同分科会の議長として北海道有朋高等学校通信制課程副校長の板東眞一先生も参加されました。

昨今、よく言われているとおり、定時制・通信制課程に通う生徒の実態は多様化傾向にあり、多くの学校において、従来のような勤労青少年の入学が減少し、不登校傾向の生徒や高校中途退学者、あるいは、自らの価値観やライフスタイルに合った学習時間帯を希望する生徒など、さまざまな入学動機を持った生徒が在籍している状況にあります。研究協議会では、このような多様な生徒の学習ニーズに対応できるよう新たな学びの場をどう再構築していくべきかについて、各分科会ごとのテーマに基づいて協議されました。

第一日目は、記念講演「沖縄から見える歴史風景」と題して、沖縄歴史研究会代表・沖縄大学客員教授（元県立高等学校教諭）の新城俊昭氏より、示唆に富むお話を伺うことができました。新城氏は「かつて琉球王国だった沖縄は、他県のように日本史の中に地域の歴史の流れを絡めて学ぶことが難しい地域だ（沖縄には、沖縄の地域の歴史を学ぶ態勢がなかった）。正しい地域の歴史を知ることが、『歴史から学ぶ』ことにつながる」との教育理念に基づき、長年にわたって研究活動に情熱を傾けていらっしゃる方です。沖縄の方言にまつわる話は「なるほど」と思う内容でした。また、1400年代から1800年代にかけて存在した琉球王国が、中国（明・清）と日本と

の狭間でどのように揺れ動いていたかなど、長年の研究によって解明された内容も伺い知ることができました。特に、歴史や考古学という分野は、人類が残した痕跡（例えば、遺物、遺構など）に関して新発見があると、それまで定説とされていたものが一夜にしてひっくり返り、新たな歴史観、世界観が構築されるという、他の学問にはないダイナミズムを体感できる、とおっしゃっていました。

翻って、私たち北海道民も地域の歴史をより深く探究することで、道民としてのあるべき姿を描くことができるのではないかと思った次第です。

次に、第1日目午後の後半から第2日目午前にかけては、各分会での発表がありました。私の発表である「ありがたい自分、なりたい自分を支援する学校づくり」は、開校から4年目を迎えた現在の状況について、困難を抱える生徒の自立支援と外部との連携・融合等に関する取り組み状況を報告する共に、生徒が生きていく上で避けて通ることのできない組織・集団（社会、職場、学校）との関係性、個人（家族、友人、教師、知人）との関係性を軸にしながらか分析したことを発表させていただきました。

また、2つ目の研究発表は「本校における生徒指導の取り組み」と題して、秋田県立角館高等学校教頭の千葉慎作先生よりご発表がありました。全校生徒30名という小規模校ならではのきめ細やかな対応のひとつひとつが、正に教育の原点であると確信いたしました。全日制課程・定時制課程は、それぞれ創立87周年、64周年を迎えた伝統校ですが、現在、角館南高等学校との統合へ向けて準備が進められているそうです。千葉教頭先生が強調されていたことは、「新しい学校に統合されようとも、現在の定時制課程が担うべき使命は「学び直し」を通じて「生きる力」を育成することである」という点です。角館高校の実践と成果を知るにつけ、説得力ある言葉として受けとめることができました。

このことは正に今次の改訂学習指導要領が標榜していることでもあり、私も決意を新たにして取り組んで行きたいと思った次第です。

貴重な機会を頂きましたことを、重ねてお礼申し上げます。報告とさせていただきます。ありがとうございました。

## 第62回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会 ・研究協議会（北海道大会）報告

北海道有朋高等学校 教頭 川邊 洋一

平成23年8月4日（木）～5日（金）の2日間にわたりホテルライフオート札幌を会場として開催いたしました「第62回全国高等学校定時制通信制教育振興会・研究協議会」について報告します。

「自然豊かな北の大地から定通教育の新しい方向と可能性を発信する」を大会テーマに、「未来を拓く定通教育の振興を目指して」を研究協議テーマとして開催されました。

【大会1日目】8月4日（木）

午前中の理事会・評議員会、各県代表者会議では、平成22年度決算、23年度予算案等すべての議案について承認され、今年度の全振役員についても原案通り、和田敬友会長は評議員、村田政孝校長は各県代表者として、それぞれ承認され、高知県が主管する平成24年度第63回大会を含む平成28年度までの全国大会開催予定地区と公益法人に移行に関わることに、説明があり承認されました。

午後からの開会式・総会では、島村宜伸会長から主催者挨拶、続いて来賓として北海道知事（代理）、北海道教育委員会高橋教一教育長、札幌市長（代理）からは歓迎の挨拶を頂き、功労者表彰では北海道からは穴水正前北海有朋高等学校長を含め4名の方が表彰され、穴水様が表彰者を代表して、挨拶を述べられました。続いての総会では、開催地として和田敬友会長、前年度開催県（新潟県）、次年度開催県（高知県）の各会長とともに議長に選出され、議事進行をされました。

総会後の講演会では、前旭山動物園園長の小菅正夫氏による「伝えたい命の輝き」と題した講演が行われ、その後、研究協議Ⅰ・Ⅱが行われました。

【大会2日目】8月5日（金）

昨日に引き続き研究協議Ⅲ・Ⅳ行われ、北海道支部を代表して、釧路湖陵高等学校の目谷信靖教頭が発表され、好評でした。文部科学省の田中孝一視学官からの指導助言があり、その後、文科省、厚労省に関する質問要望事項の回答があり、大会宣言を北海道有朋高等学校教育振興会 今村由美会長が高らかに朗読され、北海道琴似工業高等学校教育振興会

岡本健治会長の閉会宣言で、第62回北海道大会は無事終了しました。

## 第59回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会参加報告

北海道札幌琴似工業高等学校 教頭 一色 博介

平成23年11月20日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第59回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が開催されました。北海道からは、本校電気科4年の渡辺大介君と留寿都高等学校3年の島下 唯さんの2名が出場しました。この大会は、全国の定時制・通信制高等学校に学ぶ生徒が、学校生活を通して、感じ、学んだ貴重な体験を発表し、多くの人々に感動と励ましを与えることを目的として行われるもので、発表時間は7分以内です。

全国大会は、午前の部において、各都道府県の代表56名が5会場に分かれて発表し、各会場の上位2名と全体から2名の合計12名が午後の全体発表会に出場します。

渡辺君の演題は『ちょっとした勇気』。中学校時代に容姿や部活動のことがきっかけでいじめや不登校を経験し、自分に自信をなくしていました。しかし、琴似工業高校定時制に入学後は働きながら学び、バドミントン部にも入部し、室長にも選ばれ、映画制作にも取り組むようになりました。「ちょっとしたきっかけをチャンスにして自分のものにする」、すると「人生はこんなにも広がり変わっていく」ことを語りました。島下さんの演題は『支える存在』。乳がんを宣告された母親が、自分の病気のことよりも家族のことばかり心配していた。そんな母はとても強い人で、「私は母に支えられている存在だった」。福祉施設実習で得られた経験を基に、将来は施設の利用者の方々に、「私が支える存在と少しでも思っていただけのような介護を心がけたい」と語りました。渡辺君、島下さんは全体発表会への出場を果たし、ともに石澤奨学会賞を受賞しました。



## 第55回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会報告

北海道札幌月寒高等学校 教頭 伊藤 芳明

第55回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会は平成23年10月12日(水)札幌市教育文化会館において、関係各位のご指導とご協力をいただき無事終了することができました。大会運営の当番校事務局として心よりお礼申し上げます。

さて、今年度も、全道9地区から計11名の代表が集い、様々な体験や困難を乗り越えて一生懸命に生きようとする強い意志を感じさせる発表を行いました。自分自身と率直に向き合った発表、家族や仲間大切さに気付いた発表、人より少し時間がかかっても努力の大切さに気づいた発表等感動的な内容がいくつもありました。大会に出席していただいた北海道教育委員会神谷委員長様、高橋教育長様はじめご来賓の方々、石狩管内の定時制生徒の皆さん、保護者の方々に大きな感動を与えてくれたものと確信しております。

また、当日はアトラクションとして月寒高校全日制吹奏楽部に出演していただきましたが、演奏もさることながら、演奏内容や進行にも気配りいただき、多くの皆さまに高い評価をいただいたことは同じ学校に勤めるものとしてとてもうれしく思いました。



審査委員長をお引き受けいただいた北海道札幌東高等学校長 田端明雄様をはじめ審査員の方々には、非常に難しい審査をしていただき、感謝申し上げます。甲乙つけなければいけないことに矛盾を感じながらの大会ではなかったかと心中お察し申し上げます。それほどひとり一人の気概に溢



れた発表が続きました。

北海道代表として選ばれた札幌琴似工業高校と留寿都高校の生徒2名は、全国大会においてもその力を充分発揮し、全国の12位以内に入り、そろって石澤奨学金賞を獲得いたしました。

今回の全道大会の内容につきましては、平成24年1月末に発行されます記録集「輝く青春」第45号に詳しく掲載されますのでご覧いただき、定時制通信制に通う生徒たちにエールを送っていただきますようお願いして、報告に代えさせていただきます。



## 調査研究部からの報告

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会調査研究部長  
北海道札幌北高等学校 教頭 村端 悟

「生徒の多様なニーズに対応した教育活動の展開とその課題」をテーマとした今年度の調査研究は、定時制通信制高校に通う生徒の多様さやその行動に対応する生徒指導の実態を探り、今後の定時制通信制教育の生徒指導上の課題を調査研究するという目的で行いました。

同様の調査が平成20年度に行われており、前回調査から3年しか経過していませんが、変化の激しい時にあって、3年間の経過がどれほどの変化をもたらしているかを見ることも目的の一つです。

調査研究は、19項目のアンケートを実施し、今回と前回を比較・分析するという手法をとりました。数字を比較し分析するため、どうしても見づらい紙面構成になってしまいました。

調査時期・対象校等は次のとおりです

- (1) 調査対象は、北海道高等学校教頭・副校長会定通部会加盟高等学校の45校（道立35校市町村立9校、私立1校）
- (2) 調査時期は、平成23年10月14日（金）～10月31日（月）
- (3) 教頭または副校長に回答をお願いしました。
- (4) 回答は40校から得ることができました。

今回の調査結果について、特徴的な項目については太字で強調するとともに調査研究部のコメントを載せました。

今回の調査研究が、様々な背景と課題を持って定時制通信制高校の門をくぐってくる生徒を日々育て育んでいる先生方にとって、少しでもお役に立つことができたら幸いです。

是非、平成23年度の「会誌」をご一読ください。

調査研究部長 村端 悟（札幌北高校）  
調査研究部員 伊藤 芳明（札幌月寒高校）  
野呂 俊夫（有朋高校）  
市岡 幸治（江別高校）  
田邊 禎明（恵庭南高校）

## 北海道高等学校定時制通信制体育大会報告

北海道高等学校定時制通信制体育連盟事務局長  
市立札幌大通高等学校 教頭 鈴木 恵一

平成23年度の事業につきましては、関係各位のご理解とご協力により、すべて滞りなく終えることができました。各支部、各種目専門部におかれましては、春の支部大会に始まり北海道大会、秋季新人戦まで円滑に運営していただき、改めて心より感謝申し上げます。

今年度の北海道大会及び全国大会の成績につきましては、事務局（市立札幌大通高等学校）のWebサイト（<http://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/teitairen/>）に掲載しておりますので、ご参照ください。

昨年3月11日の東日本大震災は、教育関連の各種イベントにも様々な影響をもたらし、被災した東北6県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）、茨城県、栃木県及び近隣圏内被災地域の埼玉県、千葉県、新潟県、長野県の地域に在住する生徒の中には、高体連あるいは同定通部の体育大会への参加を断念せざるを得ないケースが多数あったと伺っております。また、練習施設や練習時間の確保がままならない状況のなか、苦しみや悲しみを乗り越えて参加した生徒もおりました。

このことは、わが国の教育史上においても悲しい出来事として刻まれることではしょうが、同時に、私たちは、全国の高校生が同じ志を持つ仲間に対して、協力や励ましの精神で、有形・無形の支援の手を差し伸べたことに大きな感動を覚えました。

定通部の体育大会は発足以来、記録や勝敗にこだわるだけのスポーツの祭典ではなく、困難な環境から満足のいく練習ができなくともスポーツを愛する心や自己のレベルに合わせた目標に向かっていくこと、互いの健闘を讃え合うことを標榜してきました。このことを再確認し、目標の実現へ向けてさらに努力することが、尊い命を失った同志に対する弔いになるのではないかと思う次第です。



★地区だより

道北地区定時制教育の活動状況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

道北地区長

北海道旭川工業高等学校 教頭 斉藤 穰

道北地区の概況

道北地区は、昼間定時制高校が2校、夜間定時制高校が5校の7校で組織されている。旭川を会場に定体連大会、生活体験発表大会や各校の情報交換と研究協議のために年2回の教頭・副校長会定通部会を行っている。次に各学校の教育活動を報告する。

(1) 旭川東高等学校

普通科、一間口の夜間定時制である。今年で開校88年を迎え、卒業生は、5,782名を数え、旭川市を含む道北地区、北海道全体に人材を輩出している。今年、93名の全校生徒でスタートしたが、進路変更等の理由から残念ながら15名の生徒が学校を去った。様々な生育歴・学習歴をもつ生徒達への指導は容易ではないが、退学率を減少させることが本校喫緊の課題である。高卒認定合格者、各種検定の資格取得者に単位を認定し卒業の単位に加え、3年間で卒業できる環境を整えている。

(2) 旭川北高等学校

本校定時制は、昭和28年に既にあった全日制に併置する形で設置された。卒業生の総数は1,925名である。現在は74名が在籍しており、落ち着いた雰囲気の中で教育活動を進めている。ワープロ検定などの資格取得に積極的に取り組んでいる。平成18年度



入学生から適用された学外単位認定を条件とする「三修制」による卒業生は累計で10名となった。部活動は、卓球部が15年連続で定体連全国大会に出場を続けている。最近、入学者数に増加傾向が見られるが、生徒の抱える事情は複雑化し、慎重な対応が求められることもあるのが実態である。

(3) 旭川商業高等学校

本校は、JRで札幌方面から来ると車窓から校舎が見え、旭川駅から徒歩15分程度の便利なところに位置する学校である。生徒は落ち着き、授業に集中し学習に取り組んでいる。また、商業に関する検定や硬筆書写検定や英語検定など各種検定にも積極的に取り組み、全国商業高等学校協会主催の検定では毎年三種目以上1級合格者を多数出している。

更に、部活動も盛んで運動部では、バスケット部、バトミントン部が全道大会を目指し日夜練習に励んでおり、文化部では、新聞部が手書きワープロ部門で、毎年高い評価をいただいている。

(4) 士別東高等学校

本校は戦後の昭和23年に上士別の農業後継者が学ぶ季節定時制の高校として誕生した。その役割も変化し、現在は不登校を経験した生徒や発達に課題がある生徒やコミュニケーションに課題がある生徒の学舎になっている。全校で22名という、少人数を生かしたきめ細かな指導を特色としている。そのひとつがBS(バーシックスステップ)で、基礎学力の向上を図るため、個に応じた教材を準備し5展開で国語・数学の学習をしている。また、観点別評価を行い、学力が乏しくても努力する姿勢を成績評価している。学校テーマは、「すべての子どもに居場所を求めて」である。

(5) 稚内高等学校

平成20年に60周年を迎えた宗谷管内唯一の全・定課程の併設された高校である。現在、1間口4学級体制で管理職を除く教諭8名(養護教諭1名を含む)で生徒4学年30名の指導にあたっている。

「働きながら学ぶ」学校という定時制本来の役割を尊重すると同時に学習や生活環境等の面で多様な生徒を受け入れ、個々の生徒に応じた教育活動を展開している。また、社会人を受け入れ生涯学習センター機能の充実を図ったり、通信制教育との併修による三修制も導入している。

## (6) 幌加内高等学校

日本一の作付面積・生産量を誇る「そば」を活用し、『地域の力を生徒の成長に、生徒の成長が町の活性化に』となる学校づくりを行ってきた。特徴のある取組として①卒業までに全校生徒が素人そば打ち段位初段を取得②「農」や「食」に関する体験を通し創造の喜びを体感する実習③地域住民、小中学校等との連携・交流事業による心の教育実践④保護者巻き込み型の学校運営基盤の強化⑤寄宿舎生活(全校生徒)をとおして社会性と自主・自律の精神・態度の育成⑥中学校との密な連携を図り、学校見学会、説明会等の実施(1組2時間を越える個別懇談で不本意入学を抑制)等を進めている。今後の課題としてさらに就学意識の高い生徒の確保と進路指導の充実が求められる。課題解決のためにも教職員のコミットメントを引き出し、インセンティブの高い職員集団を形成したい。

## (7) 旭川工業高等学校

「信頼される人になれ」の校訓のもと今年は創立70周年を迎えた。電気科・建築科・土木科の3学科に社会人編入生14名を迎入れ107名の生徒が学んでいる。実習や実験を重視した教育課程を編成し、ものづくり教育を通して基礎・基本の知識を身につける教育や先端的な技術に触れさせ、企業人としての資質や社会性・協調性などを育成する教育を行っている。また、難関な国家資格を取得させたり、実習の成果をいろいろな場所で展示したり、小学生を対象とした「ものづくり工作教室」などを開催したり、地域の協力を得ながら地域に根ざした学校づくりを実践している。



### ★地区だより

空知地区定時制教育の活動状況

北海道高等学校教頭会定通部会

空知地区長

北海道岩見沢東高等学校 教頭 吉岡 成尚

### 空知地区の概況

空知地区の定通部会は岩見沢東高校、滝川高校、天売高校の3校で運営されている。平成23年度の地区事業は5月29日の定体連空知地区大会(男子バスケットボール、男女バドミントン)、9月27日の生活体験発表大会の取組であった。平成19年度から開催されている「空知管内高等学校定時制通信制教育研究会」は、11月2日に行われ「キャリア教育」について研究を深めることができた。

また、共通の悩みとしては入学生数の減少が続いていることである。

次に各学校の教育活動について報告する。

### (1) 岩見沢東高校

本校は大正11年に岩見沢中学校として創立、定時制課程は昭和15年に開設された町立岩見沢夜間中学校が、幾多の変遷を経て、昭和26年に北海道岩見沢東高等学校定時制課程となり現在に至っている。平成24年は全日成90周年・定時制70周年の節目の年となる。当初の勤労青年が学ぶ場から、最近は本校への転・編入学を含め経験も多様な生徒の学びの場へと大きく様変わりしている。現在は1年生8名、2年生11名、3年生9名、4年生6名が在籍し、色々な悩みを抱えながらも元気に高校生活を送っている。本校は、多様な学力の実態に対応して基礎・基本を大切にし、考えさせる授業展開を心がけている。生徒指導面では、少人数の利点を生かし情報の共有化を図り、きめ細かく生徒に接している。生徒会活動も活発で、8月の学校祭、12月の体育大会、2月の予餞会等の行事に生徒会役員を中心に全員で取り組んでいる。部活動は、バスケットボール、バドミントン、卓球、生物部があり放課後の1時間を有意義に生かし活動している。特にバスケットボール部は、平成24年度の全道大会当番校として、初戦突破をめざし頑張っている。

## (2) 滝川高校

アはじめに

過去多かった自衛隊員や准看護学校生の入学がなくなり、急激な少子化により、年々入学者が減っているが、少人数の中でしか能力を発揮できない子ども達等にとっての大切な学習場所となっている。

イ定時制で学んでの感想（生徒アンケートから）

- ・働いて社会勉強しながら学べる
- ・少人数で学べて勉強がわかるようになった
- ・生徒と教師の距離が近い
- ・雰囲気良く、和気あいあいとしている
- ・いじめがなくよい

ウ特色ある取組

(ア) 定通併修三修制

有朋高校通信制との連携により、3年間で卒業できるコースを設け、学習意欲向上を図っている。

(イ) 高大連携によるeラーニングの実施

転編入生が多く、学習の出発点異なる現状を踏まえ、個に応じた指導を実現するため、千歳科学技術大学と連携して実施している。

## (3) 天売高校

天売島は羽幌町からフェリーで約90分、人口約370人の小さな島で、主産業は漁業である。本校は町立夜間定時制単置校として昭和29年に開校し、57年目を迎える。卒業生は現在までで415名、現在生徒数は過去最も少ない2名という状況である。天売高校の特色として、地域の自然・人材・産業を活かした体験的な活動を行っている。

①地域の水産資源を活かした水産実習・水産研究本校は普通科ではあるが、科目「水産基礎」を履修させ「水産実習」を行っている。燻製（カレイ・タコ・サケ）、缶詰（ウニ・サケ）などの製造実習を通じ、水産物の利用・加工の基礎的知識や技術を習得させ、地元産業の理解に寄与している。水産クラブ研究発表大会では、数年「磯焼け対策」を研究テーマとし、4年連続入賞を果たしている。

②ボランティア活動の実践

島内において、環境保全や体育的行事の運営など、関連する分野でのボランティア活動を行い、受入先機関の活動証明を得て、単位の認定を行っている。

### ★地区だより

石狩地区定時制教育の活動状況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

石狩地区長

北海道札幌南高等学校 教頭 滝本 玲

### (1) 石狩地区の概況

本会は北海道高等学校長協会定通部会並びに石狩支部校長会のご指導を仰ぎながら、北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の下部組織として、自主的・自立的に組織運営を進めてきた。特に定時制通信制高等学校の管理運営及び教育活動に関する調査並びに研究協議を行い、課題解決に向けた取り組みや、定通教育の振興に務めているところである。

しかしながら、平成20年度17校22名の会員であったが、札幌市立高校の再編等により、現在道立高校10校と札幌市立高校1校の定時制課程と有朋高校（単位制・通信制）の12校16名の会員による構成となった。そのため組織編成の見直しを行うとともに、校長協会や教頭・副校長会等と同様に活動（研究協議）そのものを見直しを進めている。

### (2) 現在の活動

大きな活動は年4回の研究協議会であったが、今年度年3回とした。おもな議題等は次のとおりである。

○第1回研究協議（定体連支部理事会と同日）

役員選出、事業計画、関連事業計画  
（総会的な内容）

全道定通部会準備等

○第2回研究協議

研究協議・事例発表、喫緊の課題解決に向けた情報交換、報告連絡事項等

○第3回研究協議（地区振興会総会と同日）

事業（中間）報告、次年度計画等

そのほかの活動として、定体連、教育振興会、生徒生活体験発表会、給食研等の運営など、地区や全道の事務局を持ち回りで担当しており、かつ、全道・全国の役員を兼務する事も多いため、各研究協議会では協議事項・報告事項が多いのが現状である。

また、近年高校教育を取り巻く大きな変革の波や課題に対応すべく、研究協議や情報交換を積極的に進めており、特に、定通教育特有の課題解決に向けた協議を行い、横のつながりを持ちながら学校運営

の基盤となる指導力の向上を図っている。

### (3) 主な研究協議の内容

#### ○平成22年度 第2回研究協議

「校内への不審者侵入に対する対策について」

地区内の高校で不審者（有職少年等）による生徒連れ出し（暴行事件）やプロフに顔写真を載せたことによりその女子生徒を目的として校内に不審者が侵入した事件が起こったため、平成23年度からの機械警備完全実施に備えながら、危機管理マニュアルを持ち寄り各校の対応を確認するなど情報交換を行った。特に次の点についての各校の現状や、機械警備導入後の対応について意見交換がなされた。

- ・生徒玄関、職員玄関の施錠時間、施錠者
- ・防犯設備の状況
- ・校内外の巡視、警備体制
- ・全定併置校における連携
- ・防犯に関する研修状況
- ・危機管理マニュアルの見直し

特に、全定併置校における機械警備の導入に関しては、各校とも喫緊の課題であり積極的な意見交換・情報交換がなされた。さらに、第3回の研究協議においても各校での進捗状況が報告された。

#### ○平成23年度 第2回研究協議

「学校給食施設等に係る衛生管理の工夫について」

平成22年度末、岩見沢市で起こった学校給食による集団食中毒事故を受け、給食施設・設備の一斉点検が行われ、各校それぞれ多岐にわたり、指導・改善を求められた。施設・設備に関しては事務部と連携しながら取り組む必要があるが、本会として危機管理に関し整備する必要があるため、研究課題として取り組んだ。特に、危機管理のプロセスと対応として次の点が上げられた。

- ①危機の予知・予測
- ②未然防止に向けた取り組み
- ③危機発生時の対応（緊急マニュアル）
- ④対応の事後評価と再発予防
- ⑤信頼回復に向けた取り組み

また、事例発表としてある高校の取り組みをもとに

- ・危機のリストアップ
- ・衛生管理体制
- ・緊急マニュアル
- ・各報告様式等

を確認しながら情報交換した。

未曾有の大震災と原発事故の影響もあり、今後ますます「食の安全」が求められるであろう。

### (4) 今後の課題

不安定な社会情勢の中、生徒の安全確保は言うまでもなく学校運営の「柱」である。安心して学べる学校づくりを目指すとともに、何を生徒に学ばせ、身につけさせるか、さらにどのように社会に送り出すかという「キャリア教育」がこれからの課題と考える。本会を基盤として、さらなる横のつながり、他地区との交流を深め、定通教育の発展を目指す研究協議会運営に努めたい。

#### 第42回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会 報告

北海道札幌工業高等学校 教頭 木藤 宏伸

平成23年10月5日（水）に第43回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会が、札幌工業高校を会場にして実施されました。昨年につづき「意欲的な生活態度を育む学校給食の在り方」を研究主題として、理事総会、講演、研究協議を行いました。24校44名の先生方が参加いたしました。

{理事総会}

- ① 平成23年度会務中間報告
- ② 平成23年度会計中間報告が審議了承されました。
- ③ 平成23年度～24年度の役員構成が審議了承されました。

{全体講演}

講師：(社)北海道栄養士会食育推進委員長 山際睦子 先生により、「正しい生活習慣と学校給食の役割」をテーマにご講演をいただきました。

食事は「楽しくとる」事が大切であることを強調されました。朝食をとること、バランスよく食事をとることなどを指導されましたが、会話を楽しみ、コミュニケーションをとる中で食事をとることが何より美味しい「食事」であることを強調されました。

{研究発表}

稚内高等学校 山崎恒平 教頭が、「学校給食の現状と課題」をテーマに研究発表をされました。

- ① 稚内高校定時制課程の沿革
- ② 稚内高校定時制の給食のあゆみ
- ③ アンケート集計結果
- ④ 献立表

等が発表されました。「食育だより」を配布し、楽

しい給食の時間を創出していることが発表されました。

{説明}

「第3次改訂学校給食衛生管理マニュアル」についての説明が学校教育局健康体育課学校給食グループ 本間美恵子 主査よりなされました。

校内における、「給食に関する衛生管理組織」を先ず、つくり上げることを強調されました。以上が高等学校給食研究協議会北海道大会の報告です。

「2012」

北海道有朋高等学校 教頭 川邊 洋一

自分の趣味は山登りで、40年以上になる。

2012年は退職という人生の大きな区切りとなる年。この2012という数字は気に入っている。なぜかという大雪山で一番好きな山がオプタケシケ山で、その標高が2012mであるといういとも単純な理由による。7年前、美瑛高校に勤務していたときに登ってきた。山頂は誰もいなく、山は静かで、久しぶりに快適な山行だった。

今は、これから登るであろう嘗て登った本州の山々を思い、部屋にあるピッケルを眺めている。

退職にあたって

北海道帯広柏葉高等学校 教頭 菅野 優

定通教頭会には3年間お世話になりました。貴重な経験を積むことができた3年間でした。また、この期間に日勝地区教頭会の地区長をさせていただきました。ご協力いただきました関係各校の教頭先生方に心より感謝申し上げます。

定通教頭・副校長会の今後のご発展と先生方のご健勝を祈念いたしまして挨拶いたします。ありがとうございました。

退職にあたって

北海道小樽商業高等学校 教頭 戸屋 秀吉

定時制教育に携る事3年間と短い期間でしたが、実り多い期間でもありました。

さらに、小樽は潮陵・工業・商業と3校なので気兼ねなく仕事をさせてもらいました。

ただ、残念なのが小樽商業高等学校定時制課程が後2年で閉課となることです。生徒が減少するからと単純には割り切れません。でも定時制教育に携わる事でわかりましたが、定時制教育の灯は小さくても消さないでほしい。去るにあたり切ない希望です。

誠に大変お世話になりました。

退職にあたって

北海道函館中部高等学校 教頭 井上 俊一

昭和50年4月熊石高校に新任として赴任して以来、様々な方々の叱咤激励をいただき、ようやく定年を迎えることができました。特に、教頭・副校長会の皆様には多方面にわたりご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

「中定」での3年間は、多様な高校教育のニーズを生徒から教えられ、どのように応えたら良いのかを考えることが多かったように思います。会員の皆様には健康に留意し、常に一步先を見て、生徒に寄り添った学校経営に努められることを祈念致します。

退職にあたって

北海道札幌西高等学校 教頭 佐藤 明

札幌西高等学校に赴任して3年間本当にお世話になりました。21年度は全道生活体験の当番校として、22・23年度は定体連石狩地区の事務局校として定通教頭・副校長の皆様には大変なご協力を頂いた事に心より感謝致します。皆様の今後の益々のご活躍とご健康を祈念し挨拶いたします。

## 平成24年度定通部会 事業計画（案）

### ●北海道の事業計画

No.	事業計画	期 日	会 場
1	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会	平成24年5月15日(火)	小樽市
2	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会	5月15日(火)	小樽市
3	◆北海道高等学校教頭・副校長総会・第1回研究協議会	5月16日(水) ～17日(木)	小樽市
4	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会 総会・研究協議会	6月4日(月)	札幌市
5	◆第44回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会	10月5日(金)	札幌市
6	◆第56回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会	10月17日(水)	札幌市
7	◆平成24年度調査研究報告書発行 ◆「会報」発行	平成25年3月上旬	

### ●全国の事業計画

No.	事業計画	期 日	会 場
1	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会校長・教頭・副校長研究協議会	平成24年5月7日(月) ～8日(火)	札幌市
2	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第1回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	6月1日(金)	東京都
3	◆第64回全国高等学校通信制教育研究協議会（全通研大会）	6月14日(木) ～15日(金)	佐賀市
4	◆第63回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会総会・教育研究協議会（全教協大会）	7月26日(木) ～27日(金)	名古屋市
5	◆第63回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会（全振大会）	8月4日(木) ～5日(金)	高知市
6	◆全国高等学校給食研究協議会理事会・総会	8月6日(月)	東京都
7	◆第23回全国単位制高等学校長等連絡研究協議会	10月11日(木) ～12日(金)	福井市
8	◆第66回東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会（地区通研大会）	10月25日(木) ～26日(金)	札幌市
9	◆第60回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会	11月24日(土)	東京都
10	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会教頭・副校長研究協議会	12月6日(木) ～7日(金)	一関市
11	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第2回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	12月14日(金)	東京都

### 《編集後記》

定通部会における業務についてご理解・ご協力いただきありがとうございます。おかげをもちまして、本年度の「会報」も無事発行の運びとなりました。

編集発行にあたり、ご校務ご多用の中ご執筆いただきました校長協会定通部会長の村田校長先生をはじめ、全道の副校長・教頭先生、そしてWEB更新を担当いただいた、北海道有朋高校の諸先生方にあらためて感謝申し上げます。 [ 恵庭南高等学校 田邊 禎明 ]